

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北九州市立鞆ヶ谷小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 804 - 0023
北九州市戸畑区東鞆ヶ谷町4番1号

E-mail sayagatani-e@kita9.ed.jp
Website <http://www.kita9.ed.jp/sayagatani-e/>

幼児児童生徒数 男子 104 名 女子 91 名 合計 195 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「夢を形にする 夢が形になる ユネスコスクール鞆ヶ谷」を活動テーマとして、ESD を各教科・領域の学習の検定に流れる理念と捉え、ESD の実践を通して未来の自分を予想し、実現に向けて行動する児童の育成を目標とした。

具体的には、人権、福祉、環境を柱に、①人権・平和に係わる学習、②福祉に係わる学習、③環境に係わる学習、④食育に係わる学習を行った。

① 人権・平和に係わる学習

6 年生は、修学旅行で長崎市を訪れ平和公園や原爆資料館・城山小学校などを見学する機会を生かして、平和学習に取り組んだ。文書資料やインターネットを利用して調べ学習を行い、戦争の人権を無視した非人間性や平和の大切さに気付いた。また、全校児童に協力を呼びかけて千羽鶴を作成し、修学旅行の際に平和公園の平和祈念像の横に献納した。

② 福祉に係わる教育

4年生は、「寄付の授業」で、いくつかのボランティア団体について説明を受け、実際に自分たちでその団体の応援演説をするなどの活動を通して、自分たちが社会のためにできることがあることを学習した。また、盲導犬ユーザーの視覚障害の方や聴覚障害の方の話を聞いて交流する体験を通して、障害を持っている方の人権について考えた。どんな人でも喜怒哀楽を感じながら人間らしく生きていることを学んだ。併せて、自分たちが援助したいと思うときの行動についても学んだ。

③ 環境に係わる学習

3年生は、「昆虫をかおう」の学習を発展させ、ホタルの一生について学習した。ホタルはきれいな水を好むがきれいすぎても住めない。近年、社会環境の変化でどんどん減ってきている。本校ではホタル飼育舎を作って人工飼育に取り組んでいる。子どもたちも、ホタルの生態を学び、幼虫を人工川に放流するなどの活動を行い、ホタルが住める環境を取り戻そうと考えるようになった。

④ 食育に係わる学習

2年生は、生活科学習の中で日本食文化について学習した。地域にある寿司屋の職人さんを講師として招き、子どもたちの目の前で魚をさばき寿司を握る様子を見せ、寿司文化についてのお話を聞いた。生の魚をネタにおいしく食べる工夫や職人技のすばらしさを感じ、日本食文化の奥深さに触れ興味を持つことができた。全員が寿司を頂き、「とてもおいしかった」と感想を伝えていた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

人権・平和に関わる学習

社会科の歴史における近代の世界大戦の学習、修学旅行における長崎原爆資料館等の見学、国語科「平和のとりでを築く」の学習を関連させ、総合的な学習の時間を使って、戦争と平和に関する調べ学習を行った。戦争中の人々の生活や戦後の生活、また、当時の教育の様子などを調べる中で、戦争の非人間性や悲惨さを学んだ。また、学校に植樹されている「嘉代子桜」についても調べ、桜に込められた平和への願いを感じ取ることができた。修学旅行では、実際に城山小学校跡に植えられ今に残っている嘉代子桜を見て、平和への願いの広がりを感じた。また、これからの将来を展望してよりよい社会を作っていくために自分ができることは何かを考え、発表し合った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

管理職が中心となって、ユネスコスクールの啓発を行っている。しかし、まだ各担任が中心となって、ESDを推進する組織にはなっていない。
各学年に、ESDの視点を取り入れた取組を毎年行う流れは定着してきている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教師がESDの視点について研修する機会を持ち、通常の学習活動の中にESDの視点はたくさんあるので、意識した活動とするよう取り組みを進めている。
しかし、系統立てて取組をつないだり、評価を次に生かす組織的な動きは、まだ十分に活用できていない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

通常は定期的に発行している学校通信の中で、ESDの視点を取り入れた活動の様子も掲載して発信している。学校通信は、ホームページにも載せているのでそこも活動の発信となっている。その他に、ホームページ内にESDの取組のページを作成中である。

また、北九州市内のユネスコスクールの活動をまとめた冊子に活動報告をして発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

地域の市民センターと連携し、文化祭への協力や児童の学習の場として市民センター見学を行うなどしている。また、地域にある老人ホームを合唱部が慰問して交流するなどしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクール同士の交流は、教育委員会主催の交流会の場を借りて行っている。

相手がユネスコスクールではないが、イギリスのウエールズ地方の学校との交流は開始したところである。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

外部人材の活用や体験活動を多く取り入れて学習しているので色々な人に接することができ、人々の思いや願いを感じる場面が多くある。それらが、豊かな情操を養う良いきっかけとなっている。

また、体験活動を行った時には必ず相手に対して感想を返すようにしているので、子どもたちの取り組み方も主体的となり相手意識を持った行動がとれるようになっている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

1 年生や 5 年生における、保育園との交流、2 年生の日本食文化学習、3 年生のホテル学習、4 年生の福祉学習、5 年生の環境学習、6 年生の平和学習等、平成 29 年度の実績は継承していく予定である。更に、現在ウエルズ地方のウィットチャーチル校との交流が始まったところである。3 月にお互いの学校や近くの地域の様子を知らせる DVD を交換したので、平成 30 年度も交流を続け、更に深めた意見交換等ができるような活動を企画中である。しかし、時差が大きいのでネットを使った直接会話などは難しいので、方法を検討中である。